

<回答者>

代表取締役社長 柿本 敏男、取締役 松崎 修一郎、財務・IR部長 掛見 卓也

【質問1】 タザキフーズについて(スライド 30)

Q 買収金額、のれんの金額は。

A 先方との約束でプレスリリースの時点では公表しておりませんでした。(詳細は第103期(2014年3月期)第2四半期の四半期報告書に記載の注記事項(企業結合等関係)をご参照ください。)

Q 2013年12月期に営業利益が大きく伸びる計画になっているが、以前は特殊要因で低かったのか。

A 営業利益が年々伸びているのは事実である。2011年12月期および2012年12月期には特殊要因があつて営業利益が低く見えている。2013年12月期は上半期を終えて通期計画の半分程度まで利益が出ている。したがって、2013年12月期(予想)の営業利益が実態を表した数字である。

Q 取引先店舗数は増えているのか。

A 売上高の伸びを見ていただければ伸びが分かると思う。

【質問2】 松竹梅白壁蔵「霽」スパークリング清酒について(スライド 26)

Q 「霽」の第2四半期累計期間の売上高(実績)と通期の売上高(予想)は。

A 第2四半期累計期間の売上高(実績)は約8億円、通期では20億円を超えると予想している。

Q ポテンシャルの高い商品だと思うが、売上高はどれくらいまで伸ばせるのか。

A 「霽」による売上高へのインパクトは清酒の売上高(2014年3月期(通期予想)240億円)の10%程度。今年の9月に販売ルートを拡大したので、まだ半年分の影響でこれ程のインパクトがある。早期に40億円程度に伸ばしたい。

Q 他社には真似のできない商品なのか。真似のできないポイントは。

A (2011年6月21日の)発売以降、約2年半が経過しており、研究もされていると思うが、「霽」に近い商品は他社から発売されていないと考えている。糖類や酸味料を使用せずに、米と米麴だけを原料にして、このような味わいを実現できているという点で差異化されている。

【質問3】 原材料価格について(スライド 24)

Q 粗留アルコール、原料米、液糖などの今後の価格動向はどう見ているか。

A 粗留アルコールについては、ブラジル国内におけるリアルベースの価格は大きく変動しないだろう。ブラジルでは(粗留アルコールの原料である)サトウキビが豊作である一方、(粗留アルコールの価格に影響する)ガソリン価格の上昇や、インフレの状況を考慮すると、ドルベースでの価格も大きく変動しないだろう。また、インドやパキスタン、タイでもサトウキビが豊作であり、これらの地域からも粗留アルコールが輸出されるだろうが、総じて価格は大きく変動しないだろう。

原料米は(2013年産の)加工用米が12,000円となっているが、この価格は政府備蓄米の購入価格14,100円がベースとなって決まっている。政府の方針次第という一面もあり、価格動向は先読みできない。

液糖については、米国で(液糖の原料である)トウモロコシが豊作となっており、今期ほど高値にはならないのではないかと考えている。

Q 清酒の値上げの状況はどうか。

A (10月1日宝酒造出荷分より値上げを実施しているが、)小売企業とは現在交渉中であり、来年1月からの新値移行を目指して交渉を進めている。

【質問4】 税制について

Q 消費税増税による業績への影響は。

A 増税分は適正に転嫁する方針である。増税前には駆け込み需要が若干発生するかもしれないが、大きな影響はないと考えている。

Q 酒税見直しの見通しと売上への影響は。

A まだ分からないが、ビール類(ビール・発泡酒・第三のビール)の税格差の縮小が論点になると思われる。この影響で第三のビールと同じ税率区分であるチューハイ類が増税となる可能性がある。また、清酒とワインの税格差(現状では清酒の方が税率が高い)縮小についても論点になるかも知れない。

【質問5】 海外事業について(スライド29)

Q 海外清酒市場で圧倒的シェア No.1 を狙うということだが、世界の清酒市場規模の現状と今後の伸びはどの程度であると考えているのか。

A 市場規模に関しては正確なデータがあるわけではないが、宝酒造グループで20%程度のシェアがあると推定している。宝酒造グループの海外における清酒の売上高は2014年3月期(通期予想)に約20億円であるため、市場規模はその5倍程度ではないかと考えられる。今後の伸びとして、米国市場の伸び率が参考になると思うが、リーマン・ショックの影響があった年を除いて年率8~10%で伸びており、世界全体でもこの程度の伸びは期待できるのではないかと。

以上